

安全上のご注意

注意事項 ※ご使用前によく読み、予測される事故を回避して安全にご使用ください。

△ 警告 取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重症を負う可能性があることを示します。

- **ご使用前に必ず取扱説明書を読み、一度組み立ててください。**
キャンプに付ける前に、取扱説明書通り付属品に不足がないか確認し、必ず一度組み立ててください。まれに縫製の不備や付属品の不足により、テントが建てられない場合があります。テントを収納する際は、付属品の数量を確認してください。
- **テントの近くや内部では火気を絶対に使用しないでください。**
テントの防水加工生地は、熱に弱く、燃えやすくなります。火気を使用した場合、テントが燃えたり、ヤケ丹などの原因となります。テント内部の照明はバッテリー式ランタンや懐中電灯を使用してください。
- **テントを使用する際は、定期的に換気をしてください。**
通気性が悪くなり、最悪の場合は酸素により死に至る可能性があります。また、外気温との差が10℃前後になると結露が発生する可能性があります。定期的な換気を行うことで結露の低減につながります。
- **小さなお子様をご使用になる場合、保護者の方はお子様から目を離さないでください。**
小さいお子様にポールを組み立てやペグ打ちの作業はさせないでください。日中テントの中は高温になる場合があります。熱中症になる可能性があるため大変危険です。

△ 警告 怪我や本体破損、物品破損として拡大被害の原因となる行為を示します。

- **テントは必ず2人以上で組み立ててください。**
1人で組み立てると、フライシートやポールに無理な力がかかりやすく、テントが破損する場合があります。
- **設営・収納作業には十分注意し、必ず手袋を着用してください。**
設営・収納作業時には、テントポールのスツッパ部分やペグ固定時にハンマーなどで手や指を挟んだりする可能性がありますので、作業中は、必ず軍手等を着用し、怪けや事故のないように十分注意しながら作業を行ってください。
- **設営場所は、石や小枝などをあらかじめ取り除いて整地してから設営してください。**
テントが破損する恐れがあります。
- **フライシートに鳥の糞や樹液がたれそうな場所での設営は避けてください。**
鳥の糞によりフライシートに穴が空いてしまう可能性があります。また、樹液が付着してしまうときれいに落とすことはできません。
- **ポールを扱う場合には、周囲に十分気を配りながら、事故やケガなどないよう設営してください。**
ポールは細く長いので、周囲にいる人(特に子供)の目に刺さったり、車などをキズつける可能性があります。また、ポールが折れた際応急処置として、速やかに濡れた布をあて、ビニールテープなどで固定をするか、撤収してください。
- **ペグやガイロープでしっかりと地面に固定してご使用ください。**
風でテントが飛ばされたり、屋根部に雨水が溜まってテントがつぶれる危険があります。テントが吹き飛ばされた場合、人や車、他のテントなどに当たって大きな被害になる可能性があります。ペグは全数きちんと打ってください。また、補強用ガイロープは全数きちんと張ってください。撤収時には、必ずペグを全数抜き取り、数量をチェックしてください。テントは、ペグで固定する前、またはペグを抜いた時、急な突風で飛ばされる場合があります。テントが飛ばされないよう、手を放さないでください。ペグを打つ前に、補強用のガイロープをあらかじめ仮止めしておく方法もあります。また、撤収時であれば、最後に補強用ガイロープを抜けば飛ばされません。

本製品に関するご留意事項

<対応シーズンについて>
本製品は3シーズン(春・夏・秋)対応です。降雪や氷点下の環境には適しておりません。ジッパーが凍結する低温下や降雪時にはご使用をお控えください。

<折りジワについて>
本製品のテント、シェルター、タープに使用している化学繊維には、折りジワが発生する場合があります。これは製品の性能に影響を与えませんので、あらかじめご了承ください。

<撥水性能について>
生地表面には撥水加工を施しておりますが、使用の頻度や条件により、撥水性能が徐々に低下し、雨が染み込む場合がございます。なお、裏面の防水性能には影響がありませんので、引き続きご使用いただけます。撥水性能の長期維持はできかねますことをご了承ください。

<フロント拡張パネルのファスナーについて>
フロント拡張パネルのファスナーには防水性能はございません。雨天時や結露が多い場合、ファスナーから水が滴る可能性があります。ご了承ください。

<シームテープの変色について>
シームテープは使用とともに変色することがございますが、製品性能に影響はありませんので、安心してご使用ください。

メンテナンス / 保管方法

- 使用後は、必ず完全に乾燥させてから保管してください。湿気が残ったまま長期間保管すると、生地裏面のポリウレタン加工が水分により分解・剥離するおそれがあります。また、特にシームテープ部分には水気が溜まりやすいため、タオル等でしっかりと拭き取ってから保管ください。シームテープの剥がれや防水性の低下、カビの発生、悪臭、色移り、生地の劣化を招く原因となります。
- 生地の乾燥は生地同士が触れ合わないようにして、通気性の良い場所で行ってください。
- フライシートの汚れを落とす場合は、水で洗い流すか、乾燥した状態でブラシなどで払い落としてください。汚れのひどい場合には中性洗剤を水で薄め、汚れた部分をスポンジなどで軽くこすった後、水で洗い流してください。ただし、強い液性の洗剤を使用したり、強くこすりすぎると、生地外側の撥水加工(テフロン加工を含む)が極端に低下しますので、ご注意ください。
- 生地の表面を洗う時には、裏面の防水コーティング面を傷つけないように注意してください。洗濯機で洗濯したり地面にこすりつけたりすると、ポリウレタンコーティング面に傷がつく事があります。また、シンナーやベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。コーティング剤が溶けおそれがあります。

品質保証について

お問い合わせいただきました製品は万全を期していますが、万一不備がございましたら弊社までご連絡ください。製造上の欠陥が原因の場合は無償で修理または交換させていただきます。その他の場合は適正価格で修理を行わせていただきます。修理・交換の判断は弊社の裁量によるものとさせていただきます。また、以下の場合は保証・修理できない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

1. 取扱説明書に従わなかったと判断した場合。
2. 素材の経年劣化による製品の寿命。
3. 改造及び粗雑な扱いによる故障。
4. 不測の事故による製品の故障。
5. その他製品の欠陥以外による製品の故障。
6. 消耗品の劣化、破損、故障及び付随する不具合。
7. 分解したことによる不具合の発生・破損。
8. 落下やその他の衝撃による変形・破損による不具合。
9. 消耗品の劣化、破損、故障及び付随する不具合。

修理について

1. 修理依頼は、破損時のご状況、修理箇所の詳細(破れサイズ等)がわかる写真と、お問合せフォームのチェックシートに修理箇所がはっきりと解るように、印をつけて添付の上、「info@ratelworks.jp」までメールでお問い合わせください。
2. 弊社にて修理内容を確認し、お見積もりいたします。お客様のご了承をいただいた後、修理を開始致します。
3. 修理品を郵送する場合は汚れを綺麗に落とし、必ず十分に乾燥させてください。
4. 修理が必要な製品のみの発送してください。
5. 修理品の運賃並びに修理費については下記の規定とさせていただきます。
 - ※保証対象の場合：往復の運賃・修理費は弊社が負担いたします。
 - ※保証対象以外の場合：往復運賃・修理費はお客様のご負担とさせていただきます。
 - ※製品修理を行う場合、新品に戻るわけではないため、縫製や修正箇所が目立つ場合がございます。予めご了承ください。
 - ※修理に要する時間は、破損状況、修理難易度、混雑具合によって前後いたします。予めご了承ください。



不明な点やお気づきの点がございましたら、弊社までお問い合わせください。

株式会社丸栄
info@ratelworks.jp
MADE IN CHINA



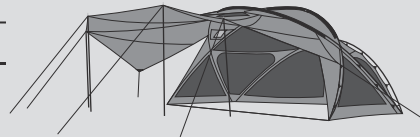
RATEL WORKS

取扱説明書

Ver.2.0

RWS0328GR -ヴォーゲルミッド-

VOGEL MID



この度はラーテルワークス製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。安全にご使用いただくため、本説明書をよく読んでからご使用ください。また、説明書は大切に保管してください。ご不明な点や製品に不具合が確認された場合は直ちに使用を中止し、弊社までお問い合わせください。

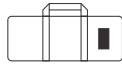
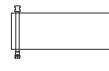
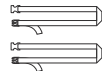
セット品 ※はじめに、必ず不足がないかご確認ください。

アーチポール (黒①) ×1

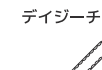
コンプレッションベルト ×2

ポール収納袋 ×1

収納袋 ×1



アーチポール (黒②) ×1



バックポール (黒) ×1

※末端部に識別刻印 (BACK POLE) があります。

ガイロープ ×5
(オリジナル自在付き)

鍛造ペグ 25cm ×13

デージーチェーン ×1

ハンマー ×1

ツールバッグ ×1



フライシート

ルーフプロテクタ

フライドア

メッシュドア

グランドシート



オーバーハングポール (紫) ×2



警告

取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重症を負う可能性があります。ご使用前に必ずご一読ください。

テント内での火器の取扱いは死亡、重症などを負う可能性がある、大変危険を伴う行為です。ご使用の際には必ずご一読ください。また、本製品はその安全性を保証するものではありません。本製品に起因する死亡事故・ケガ・火傷・火災などに対する一切の責任は負いかねます。自己責任としてご理解の上ご使用ください。

- テント本体に外的要因による力(強風・積雪・大雨など)がかかる状況では薪ストーブを使用しないでください。テント本体や薪ストーブの転倒により最悪の場合死に至る事故が発生するおそれがあります。
- 薪ストーブを使用する際は必ず一酸化炭素検知器を設置し、テントは密閉せず常に換気を行い、新鮮な空気を取り込んでください。換気を行わずに使用すると一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- ご使用の薪ストーブの扉を開けたまま使用しないでください。また、破損等により扉が開まらない薪ストーブは使用しないでください。テント内に一酸化炭素を含む煙や、火の粉が漏出し大変危険です。
- 薪ストーブの煙突が外れたまま使用しないでください。一酸化炭素を含む煙がテント内に漏出し、危険です。ご使用前に必ず煙突がしっかりと接続されていることをご確認ください。
- ストーブジャックはハサミなどでカットすることができます。下穴を開けてご使用される煙突の太さに合わせて拡張してください。
- ストーブジャックは高い耐熱性のある素材を使用しておりますが、使用するにつれて変形・変色します。
- ストーブジャックやテント本体に破損や劣化が認められた場合はご使用をおやめください。
- 薪ストーブの煙突には耐熱性のある煙突ガードを必ず使用してください。
- 薪ストーブの煙突とテント本体の生地が直接触れていないか十分に確認してください。
- 薪ストーブの煙突は、ぐらつきがないようにロープやワイヤーなどを用いて、しっかりと固定してご使用ください。
- ストーブの燃料はよく乾燥した自然の薪のみご使用ください。石炭・練炭・豆炭、人工薪等の燃料は使用しないでください。
- 燃焼ガスのおよそ半分が一酸化炭素となるため一酸化炭素中毒、最悪の場合死亡事故の原因となります。
- 水分を多く含む薪、紙や落ち葉など、爆ぜる・火の粉が飛散する燃料を燃やさないでください。煙突から火の粉が飛び散り、火災やテント生地が損傷する可能性があります。
- 薪ストーブをご使用される場合は絶対にそばを離れないようにしてください。テントを離れる際や就寝する前には完全に消火し、再燃焼の可能性が無いことを十分に確認してください。
- 十分に注意、対策を施していても煙突や薪ストーブ本体からは火の粉が発生する可能性があります。テント本体の生地にふれた場合、穴が開く可能性があります。
- テント内では衣類等を乾燥させるなど、燃えるものを放置しないでください。火災の原因となります。
- 定期的な掃除を行った煙突をご使用ください。煙突に煤やタールがたまると排煙が不十分となり、テント内への排気ガス漏出、煙突から火の粉が飛び散り、火災やテント生地が損傷する可能性があります。
- 薪ストーブをご使用の際は、万が一の自体に備えて必ず消火器をご準備ください。
- 薪ストーブとテント生地(可燃物を含む)の間には最低でも30cm以上の離隔を設けてください。火災の原因となります。
- 薪ストーブをご使用の際は、ご使用される薪ストーブの取扱説明書も合わせて熟読してからご使用ください。
- 強風が煙を逆流させる可能性があるため、換気扇や風上に設置しないなど、風向きを考慮した上で設置してください。
- 薪ストーブ本体は非常に高温になるため、触れると火傷の危険があります。耐熱手袋を使用し、周囲の人にも注意を促してください。

下記の表は一酸化炭素を含んだ空気を呼吸した場合に人体が引き起こす中毒症状をまとめたものです。一酸化炭素は無色、無臭の気体で空気中に拡散した場合、非常に気が付きにくく、毒性も強力なので呼吸するだけで中毒症状を引き起こし、最悪の場合死に至る可能性があります。

一酸化炭素が人体へ与える影響

経済産業省 高圧ガス保安協会「CO中毒事故防止技術」抜粋

空気中一酸化炭素濃度	単位 : ppm	吸入時間と中毒症状
0.02%	200ppm	2～3時間で前頭部に軽度の頭痛
0.04%	400ppm	1～2時間で前頭部・吐き気、2.5～3.5時間で後頭痛
0.08%	800ppm	45分間で頭痛・めまい・吐き気・けいれん、2時間で失神
0.16%	1600ppm	20分間で頭痛・めまい・吐き気、2時間で死亡
0.32%	3200ppm	5～10分で頭痛・めまい、30分で死亡
0.64%	6400ppm	1～2分で頭痛・めまい、15～30分で死亡
1.28%	12800ppm	1～3分で死亡

設営方法



◀◀◀ 設営を行う前に左の QR コードから、ラーテルワークス公式チャンネルの設営動画を取扱説明書と合わせてご覧ください。

設営手順

- 幕体を広げ、アーチポール（黒①）アーチポール（黒②）をセット
※アーチポール（黒①）に対して、アーチポール（黒②）が上側を通過します。
- バックポールをセット
- オーバーハングポールをセット
※バックポール（黒）に対して、オーバーハングポール（紫）が上側を通過します。
- 全体とフロントパネルのペグダウン

1 幕体の展開とアーチポールのセッティング

- フライシートすべてのジッパーが必ず閉まっていることを確認し、平らな場所を選んで、整地を行ってから幕体を広げてください。
- フライシートを広げます。 ※青●4箇所を最初にペグダウンすると設営中の破損などを防げます。黒色のスリーブにアーチポール（黒①）を通し、黒〇位置にあるテープのグロメットにアーチポール（黒①）の先端を押し込みます。
- 次に、もう一方の黒色のスリーブにもアーチポール（黒②）を通し、黒〇位置にあるグロメットにアーチポール（黒②）の先端を押し込みます。※2つあるうちの内側のグロメット。
- それぞれのアーチポールを押し上げるようにして自立させます。
- アーチポール（黒①②）2本の交点（左右）緑〇位置を巻留めテープで固定します。その後、フライシートに付いているポールフックをアーチポールに全て嵌め込みます。



2 バックポールのセッティング

- 黄〇位置のグロメット 2 箇所にバックポール（黒 ※BACKPOLE 刻印あり）を押し込みます。
- フライシートのフックをバックポールに全て嵌め込みます。
※この時点でバックポールは後方に傾いた状態で自立します。

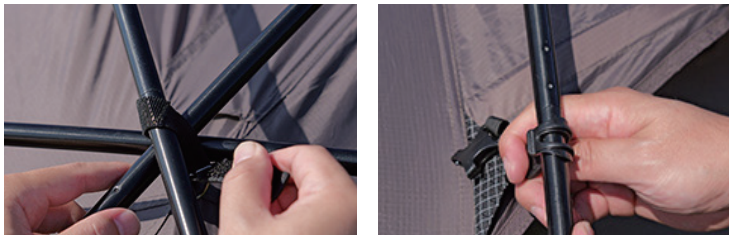


3 オーバーハングポールのセッティング

- オーバーハングポール 2 本を組み立て、入口が紫のスリーブにそれぞれ通していきます。
- スリーブに通したポールの先端を前方のひさし先端アジャスター付きグロメット（紫〇）に押し込みます。
- 後方の末端も地面側フライシートのアジャスター付きグロメット（紫〇）に押し込みます。
- ひさし先端アジャスターを最後まで引き絞ります。



- バックポールとオーバーハングポール 3 本の交点（緑〇位置）を巻留めテープで固定します。
- その後、フライシートに付いているポールフックをオーバーハングポールに全て嵌め込みます。
※この時点でテントは半自立するため、向きや位置などを自由に変更可能です。



4 テントの固定、フロントパネルのペグダウン

- テントの向き、位置を確定したら、フライシートの青●位置にあるテープをペグダウンします。
- フロントパネルの青〇位置にあるテープをペグダウンします。
※フライシートの張り具合を確認しながら行ってください。

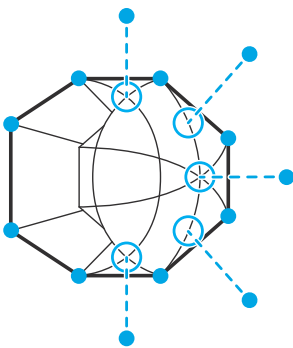


5 耐風ループと巻留めリングのペグダウン

- 各ポイント青〇位置（耐風ループとポール交差点の巻留めテープ金属リング）にガイロープを結び、ペグダウンしてください。
※風の強弱にかかわらず、フライシートへの負荷を低減するため、必ずペグダウンしてください。

ペグダウン位置平面図

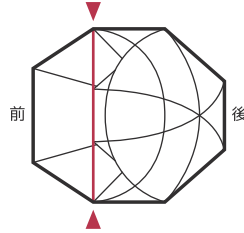
- ペグダウン位置
- ガイロープ
- 耐風ループ位置



6 フライドア・メッシュドアの取り付け

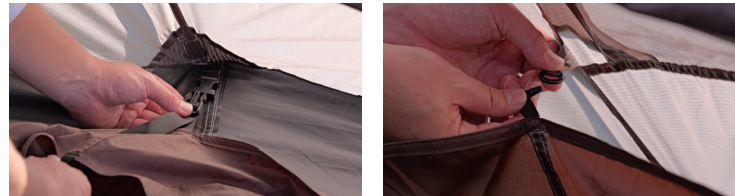
- フライドアまたはメッシュドアを収納袋から取り出して広げます。
- フライドア・メッシュドアは下図の赤ラインの位置に設置します。
- アーチポール（黒①）を押し込んでいる両端グロメット付近にジッパーのスライダーが 2 つあります。スライダーにフライドアまたはメッシュドア端部のエレメントを押し込み、左右両方のスライダーを中央まで閉じて装着完了です。

フライ・メッシュドア取り付け位置



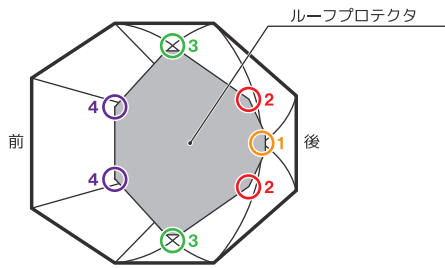
7 グランドシートの取り付け

- グランドシートを収納袋から取り出し、テント内に広げます。
- 後方にあるバックルから順番に接続し、バックル上部のトグルを〇リングに取り付けます。
- 前方中央にあるフチ立ち上げポイントをペグダウンします。
- テント正面から見て左側は、土間スペースとして活用できるように、一部巻き留めておけるようにトグルとループが付属しています。必要に応じてご利用ください。



8 ルーフプロテクタの取り付け

- ルーフプロテクタを収納袋から取り出して広げます。
- 後方の黄〇位置バックル 2 個をフライシート後方のバックルと接続します。
- ルーフプロテクタをフライシート前方に被せていきます。
- 赤〇位置のバックルを接続します。
- アーチポール（黒①）とアーチポール（黒②）の交点近く（緑〇）のバックル（片側 2 個）を接続します。
- 前方ひさし先端アジャスター付きグロメットに押し込んでいるオーバーハングポール先端（紫〇）にルーフプロテクタ先端のアジャスター付きグロメット 2 箇所を嵌め込みます。



9 フロントパネル跳ね上げ

※フロントパネルの跳ね上げを行うには、フリップアップポール 190cm×2 本、170cm×2 本、ペグ×6 本、ガイロープ×6 本が別途必要となります。

- 図 A-B 間にあるフロントパネル外側の拡張部ジッパーを開放します。
- 図 C の位置にあるジッパーを開放します。
- 190cm フリップアップポールを図 A 位置のグロメットに押し込み、ガイロープでペグダウンします。
- 170cm フリップアップポールを図 B 位置のグロメットに押し込み、ガイロープでペグダウンします。
- 図 C の位置にガイロープを結び、ペグダウンします。

ペグダウン位置平面図

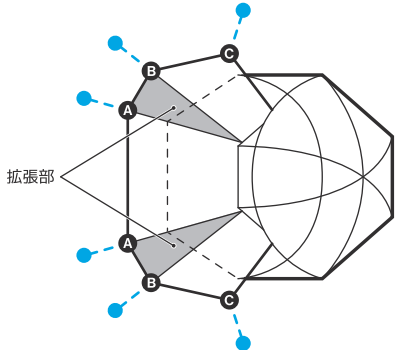
- ペグダウン位置

- ガイロープ

- 190cm ポール使用位置

- 170cm ポール使用位置

- ガイロープ結び部



10 パネルアレンジ例

※画像はVOGELのものです。

フロント拡張パネルのファスナーに防水性能はございません。
雨天時や結露が多い場合、ファスナーから水が滴る可能性がありますので十分にご注意ください。

